

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2015年12月29日発行 第57号

居場所づくり勉強会 第39弾!

～パレスチナで今起きていること 占領下の生活と人々～

「わたしたちは、ただ平和な普通の生活をしたいだけなのです。」これは、パレスチナで暮らす人の言葉です。みなさんはパレスチナという地域について聞いたことがありますか？中東の危険な紛争地、というイメージが強いかもしれません。



1948年に中東のパレスチナ地方にイスラエルが建国されたことをきっかけに、多くの人々が住んでいた土地を奪われ、難民となりました。そして、イスラエルとアラブ諸国との紛争ののち、パレスチナのヨルダン川西岸地区とガザ地区もイスラエルの占領下におかれることになりました。

現在もパレスチナの人々はますます土地や水源を奪われ、移動の自由がなく、信仰を制限され、不当に逮捕され、そして常にイスラエル軍の脅威にさらされています。この地域の代表的な農作物であるオリーブの木も、毎年1万本近くがブルドーザで引き抜かれたり、燃やされたりしています。このような占領に対してデモや投石で抵抗する人たちもいますが、イスラエル軍は催涙弾やゴム弾で応戦します。巻き込まれて犠牲になった人も多くいます。衝突が激しくなった今年の10～11月だけで102人のパレスチナ人が亡くなり、11,297人が負傷している状況です。

今回の勉強会では、10月にパレスチナ西岸地区で援農ボランティアをしてこられたオリーブの会のケイさんとヌールさんのお話を聞きたいと思います。「遠い地域の複雑な問題」としてではなく、人々の生活にまさに降りかかっているできごととして聞いてもらえればうれしいです。



ゲストスピーカー：ケイさん（オリーブの会）・ヌールさん

日時：1月22日（金）14：00-16：00

場所：日本自立生活センター

参加費：無料

担当：横川



❖❖❖Season's Greetings❖❖❖

2015年も本当にありがとうございました。
みなさまのお力のおかげで、無事に一年を終えることができました。
新しい年2016年も、みなさまにとって素晴らしいものになりますようお祈りしています。
これからもどうぞよろしくお祈りします。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

居場所づくり勉強会第37弾報告 ～聞いてみよう！仏教のお話～

11月20日、居場所づくり勉強会「聞いてみよう！仏教のお話し～真宗とはどんな教え？～」に参加しました。お話しされたのは、JCILの介助者でお坊さんの老野生さんです。

この勉強会に参加したのは、中東、ヨーロッパ、合衆国等で、一見「宗教的」とされる対立が激化しているからです（本当に宗教的なものなのか、経済的、政治的、社会的なものなのか、はたまた複合的な要因なのかはわかりませんが……）。そのような中で仏教的な物の見方、考え方はどのようなものか知りたく参加しました。



結論から言いますと、この勉強会に参加して、仏教ってこんな言葉を使って発想して、考えているんだなと、その一端を垣間見ることができました。参加できてよかったです。

老野生さんが話してくれたのは、仏教的な考え方と法然、親鸞についてです。話は多岐にわたっていますので、すべて紹介するのは難しいですが、私が聞いて面白かったのは次の点です。

仏教的な考え方では、生老病死に伴い人間は根本的に「苦」を背負っているということです。「苦」を感じるのは、「理想」があるからであって、現実と理想の間にギャップがあるからです。それに加えて、ややこしいのが「理想」が果たして本当に「理想」なのかどうかを判断することができず、往々にして「理想」は偽物であり、そうであるがゆえに「迷い」を生じさせるということでした。結果として迷っていることこそが苦の状態であり、仏教はそこから解放されるためにあるということでした。

老野生さんの話の中では、以上のような仏教的な考え方が示されました。その中でも真宗ということで、法然、親鸞の画期性というものが述べられました。法然が偉かったのは、法然が生きた時代に救われるのは貴族などの層だけだったのが、全ての者が救われないのなら仏教ではないとして救済の対象を無限定にした点だということでした。そして、全ての者が救われる方途として、念仏を唱えることがその核心にあるということでした。

とはいえ、なぜ念仏を唱えることが救いになるのかについては、法然によると「聖意測り難し」だそうです。つまり、愚かな私が仏様の心などわかるはずがないということでした。そのため、問を転換して念仏が私（たち）に何を求めているのかを考える必要があるということでしたが、そこからは私には非常に難しい話でした。

いずれにしろ、仏教的な考え方と歴史的に「聖意」と「愚かな私」の間で揺れる法然・親鸞という姿を老野生さんが提示してくれた場となり、非常に有意義な勉強会でした。付け加えるならば、仮に「愚かな私」が「聖意」が分からない中で、正義や公正に反する出来事、社会があった場合仏教的にはどのように考えるのか興味を持ちました。以上簡単ですが、勉強会の報告となります。聞き逃したところや、私の思い込みも多々あるかと思いますがご容赦ください。

(宇野善幸)

こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることはありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

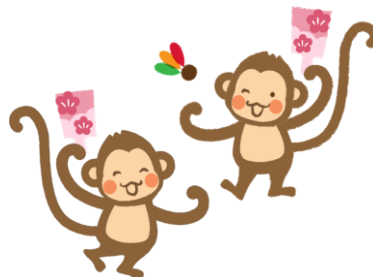
日 時：1月18日(月)

17:00-18:15 (OPEN16:45)

場 所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料



*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

総合支援法に変わったよ！ えっ、ほんま？Part46

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



ほんと、早いね。タクオさんはどんな一年だった？

ああ、うちもそう思う。以前は、障害者が一人暮らししようとする、まわりからいろんな反対にあったけど、なんか最近ハマりから応援されるようになってきてる感じがする。

うん、いい傾向やねー。うちもみんなを応援するし、みんなのモデルになるようがんばらないと！

うーん。まあ、ぼちぼちかなあ。でも、自立生活はじめてちょっと落ち着いて、これからどうしたらいいか、ってことをちょっと考えてるかな。

うん。やっぱり、自立生活はじめたころは、わりといきいきと暮らして、多少のこともなんとかのりこえてきたけど、何年かたつと、ちょっと疲れてくるところもあるかなあ。

うん。あと、自分のまわりでいえば、なかなか介助者も安定しなくて、みんなアップアップな感じがする。運動も、やらないといけないと思うけど、日々の生活をまわすだけで毎日がすぎてる感じ。

そういえば、この間、忘年会で、漫才の芸やってはったな。バンビーノのダンシング・フィッソン族とか。あれは普段見られない姿が見られて、おもしろかった～

そうだね。うちも、一人暮らしがゴールとちゃう。これはスタートなんやし、もっといろんなことをやっていきたい！

障害者制度改革について

勉強中のタクオさん

小難しいこともやさしく(?) 解説



もう年末だね。あつという間の一年だったね。

なんかバタバタしてて、あんまり覚えてないなあ。けど、なんか最近、一人暮らしをする人、一人暮らしをしようとする人が、どんどん増えてきているみたいと思う。

うん。そうだよ。知的障害があっても、一人暮らしをする人が増えてきたから、みんな、自分もできるかな、自分もやらないとな、と思ってるのかもね。今年は、一人暮らしをする人や、その練習をはじめた人が増えたんじゃないかなあ。

そうだよ。モデルになる人がいたら、自分もがんばろ、と思うよね。リツコさんはどんな一年だった？

そうなんだ。どんな感じだろう。

そうかあ。生活もマンネリかしてくるかもね。

確かにね。事業所としては、人手不足は変わらないね。でも、なんとか新しいことをやるとか、みんなで支え合おうとかしながら、もりあげていきたいね。

あれはすごかったねー。新たな扉を開いてたね。マンネリな気分になることもあるだろうけど、みんなでいろんなことにチャレンジして、がんばっていききたいね。

では、よいお年を一！！！！

【勉強会報告】住まいと障害者の地域生活～CIL 豊中のみなさんをお招きして

2015年11月13日、本体事務所で、住まいの場づくりの勉強会をもちました。住まいの場づくりは、土田五郎さんが中心になり、障害者の住宅の問題にとりくんでいる運動です。いままで、市営住宅の空き家に改修費をつけたり、市営住宅の内覧制度を要望したり、これからの住宅支援について国土交通省に要望するためにアンケート集めをしたり、一人暮らしを希望された方の引越し支援、などしてきました。

この活動のなかから、仲間づくりのためにCIL 豊中のみなさんを招いて、勉強会を企画しました。CIL 豊中からは代表の上田さん、スタッフの瀧本さん、相談支援員の大東さんが来てくださいました。一人暮らしをはじめたきっかけ、住宅探しの方法、豊中の制度についてうかがいました。

上田さんは、九州の田舎で大学生だった時よりも、都市の大阪で住宅探しをした時の方が大変だった、というエピソードなどを交えて話してくださいました。一人暮らしのきっかけは、「彼女を作ろうとしたらやはり一人暮らし」と思ったというお話があり、多く参加者の共感を呼びました。また「いまの豊中では相談支援や計画ありきという雰囲気になってしまい、自分たちの運動をどうしていくか考え直さないといかん時期かな」と語ってくださいました。

瀧本さんは、関節を動かさないと固まっていく障害をもっておられて、3年前からCILに入られました。「両親からの束縛が厳しくて、友達と遊びに行くと質問攻めにあうのが苦痛だったのと、家にも自分の部屋にいたら部屋のドアをあけて様子を見に来るとかもあったので、もっと自由に生活したいなあと」と、自立生活に踏み切った経緯をお話いただきました。

大東さんは、23年近く障害者の人と活動してきて、CIL 豊中の設立をされた大友さんの介助に入っていたという方でした。いまは相談支援専門員として計画相談事業にかかわっておられます。そのなかでMさんという方の家探し支援をされた経緯をお話いただきました。

和やかな雰囲気ですくばらんに、豊中と京都の住宅事情のちがい、制度のちがいなど意見交換しました。勉強会后には、あいにくの雨でしたが、サロンのみなさんが準備してくださった芋煮会で交流を深めました。

土田さんは「面白かったな」と言っていました。参加してくださったみなさん、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。
(高橋慎一)



ファーストステップ
芋煮会
2015.11.13

